第８回ふるさと川柳コンテスト審査委員選評

最優秀賞	田植え機の　おとしたどろが　みちしるべ	
	大西委員長	〈みちしるべ〉は、単なる道案内だけではなく、ご先祖様たちがそこでしっかりと根を張り、生活をして来た土地、そのような心豊かなふる里へ導いて下さる〈みちしるべ〉だと思いました。ステキな一句ですね。
	清水委員	農繁期、田んぼ沿いの道路に農業機械が落とした土や泥が落ちている光景を目にします。汚いと嫌われがちな土くれを「みちしるべ」にたとえたところに、ふるさとへの愛着が感じられます。
	上田尾委員	都会では見ることのできない田植え機の落とした“どろ”が、ふるさとへ誘う道しるべとなっているという着眼点に感心しました。“どろ”に誘われて帰る、ふるさとへの郷愁が感じられる、素晴らしい一句です。
優秀賞	草原も　友と帰れば　花畑	
	大西委員長	ただの草原も、仲の良い友だちと家路に向かえばまるでお花畑を歩いているような気がするのですね。楽しい会話や笑い声が聞こえてくるようで、心弾むようすがよくわかるいい句です。
	清水委員	代わり映えのない草原は、独りで歩いているとつまらないものです。でも、友だちと一緒だと、同じ道でもまったく違った情景に見えてくる。「花畑」という語から楽しさが伝わってきますね。
	上田尾委員	何気ない風景も、ふるさとの友達といれば素晴らしい風景になる。ふるさとの友達と過ごした楽しい過去の時間を思い出させてくれる哀愁のある句です。
優秀賞	つばめの子　帰って来てね　ぼくの家	
	大西委員長	今年巣立って行った〈つばめの子〉が、また来年も来てくれたらどんなにうれしいことでしょう。来年のことを今から気づかう、そんなやさしい気持ちにあふれた句になりましたね。
	清水委員	人家の軒先に巣を作って子育てをするツバメ。その姿を楽しみにしている人も多いでしょう。巣立ちにより去って行くのは淋しいけれど、いずれまた戻ってきてほしい。そんな思いがこめられたかわいらしい句です。
	上田尾委員	軒下に造られたつばめの巣から子どもが巣立っていき、主がいなくなったつばめの巣。そのさみしさと共に、また来年戻ってきて欲しいと願うぼく。きっと来年は、ぼくも一回り成長していることでしょう。
優秀賞	木の香り　返って来たよ　ふるさとへ	
	大西委員長	木の香り、という形の無いものがふる里の象徴として句に詠まれたのはすばらしいのひと言ですね。身体すべてでふる里を感じているのがよくわかります。
	清水委員	香りに懐かしさを感じることってありますね。この句の作者の場合は「木の香り」です。駅やバス停に降り立った瞬間、吸い込んだ空気にふるさとを感じる。そんな情景が目に浮かびます。
	上田尾委員	ふるさとを感じるのは、目から耳から、そして匂いからも感じることができる。離れていると忘れてしまっている“木の香り”を感ずることによって、体にふるさとが入っていく様が感じられる句です。